

御中

材 料 承 認 願

令和 年 月 日

工事件名

工事箇所

株式会社 松井文ショウ堂 岡山支店

〒711-0937 岡山県倉敷市児島稗田町1896-2

TEL (086)472-8922

FAX (086)472-8918

E-mail ta-matsui@matsuibunshodo.co.jp

URL <http://www.bosomasa.jp>



令和 年 月 日

様

株式会社 松井文  ショウ堂

〒711-0937 岡山県倉敷市児島稗田町1896-2

TEL (086)472-8922

FAX (086)472-8918

使 用 承 認 願

工事名: _____

上記工事に使用する下記製品の使用をご承認いただきたく別添資料を添えてお願い致します。

製品名 防草マサスペシャルハード

荷姿 ※25kg/袋 ※1tフレコンバック

別添資料: 製品カタログ・製品成分表・計量証明書

蠟石(アルミニウム化合物)配合(国内初)

安全・環境に優しい!

特許
出願中

防草マサスペンタル

自然土景観防草材



舗装面を強固に保護・防草!

NET25kg

用途

公園の園路、中央分離帯、ガーデンアプローチ、
犬走り、鉄塔下、高架下、交差点、路側帯の防草

特長

- 敷きならし、転圧、散水のみのできわめて簡単な作業です。
- 蠟石が土壌中のリン酸を不溶化し植物に必要な養分を欠乏させます。
- 蠟石を入れることにより圧縮強度、曲げ強度をより強力にします。
- 雑草が生育せず、草抜きの必要がありません。
- ヒートアイランド現象を緩和します。
- 環境に優しい安全な品質です。
- コケ・カビ等が繁殖しにくい。

※裏面の説明を必ずお読みになってご使用下さい。

安全・環境に優しい!

防草マサススペシャル



標準施工断面



	用途	厚み	使用量	水
標準施工 1㎡あたり	駐車場	50mm	3.7袋	約12~13ℓ
	庭園、犬走り、 ガーデニングアプローチ等	40mm	3.0袋	約10~11ℓ
	中央分離帯、防草	30mm	2.2袋	約7~8ℓ

・蠟石	・砂
・固化剤	・天然鉱物

※1袋に対して3.5ℓを目安に散水して下さい。

施工手順



① 下地整正

クラッシャーラン C40~0 を敷きプレート転圧、ローラー転圧等で下地を強固にします。



② 敷き均し

トンボ、板等で敷き均しを行います。5メートル未満の間隔で目地を入れて下さい。



③ ローラー転圧

専用ローラー、1tローラー等で均一に転圧してください。



④ 不陸整正、表面仕上げ

コテ等で不陸整正を行い、ハケ引き等をして表面を整えます。



⑤ 1次散水 (水道水)

動噴、シャワーノズル (霧モード) で柔らかく散水してください。



⑥ 散水後転圧

水が引いたのを確認しローラー転圧を施してください。



⑦ 2次散水

動噴、シャワーノズルで表面に水が浮かない程度に散水し水が引くのを確認してから規定量まで繰り返し散水します。

養生 2~3日程度養生を行ってください。
 ※施工面には立ち入らないようにしてください。
 ※夏季は特にドライアウトに注意し2日間は散水養生を行ってください。
 ※施工後に降雨が予想される場合はシート養生を行ってください。
 ※冬季は、凍害を防止するためマット養生をしてください。

注意事項

- 施工時はゴム手袋、マスク、防塵メガネ等を着用してください。
- 冬期気温 5℃以下では凍結の恐れがあるため施工できません。
- 散水量は厳守してください。(少ないと効果不良が起こります)
- 自然土のためロットにより多少色の違いがあります。
- 固化剤の性質により白華することがあります。
- 樹木の成長、地盤の下がりにより陥没やひび割れが起こる場合があります。
- 縁石の境界などで、隙間ができた場合は雑草が発生する事があります。
- 本製品は湿気の無いお子様の手の届かない場所に保管し、開封後はお早めに御使用下さい。

製造・販売元

株式会社 **松井文栄堂** 岡山支店

〒711-0937 倉敷市児島稗田町1896-2

tel.086-472-8922(代) fax.086-472-8918

ホームページアドレス www.bosomasa.jp

メールアドレス ta-matsui@matsuibunshodo.co.jp

取扱店

製品成分表

品名：防草マサスペシャルハード

内容量：① 25kg/袋

② 1トンフレコンバック

包装：① クラフト紙2層 ポリエチレンフィルム1層(25kg/袋)

② 合成繊維(PP) ワンウェイ式(1トンフレコン)

外観：天然ろう石, プレミックスパウダー

主成分：① 天然ろう石(産地:広島県庄原市)

② 乾燥砂

③ 無機固化剤

④ 乾燥天然鉱物

⑤ 無機系着色剤

備考：成分は天然鉱物を主原料にしています。

着色剤は食品等に使用されています。

試験報告書

株式会社 松井文ショウ堂

殿

試料の区分：固形物一般
試料の名称：防草マサスベシャルハード
試料採取日：***
試料採取者：持込試料
試料採取場所：***
依頼年月日：2020/08/17

事業者 公益財団法人岡山県環境保全事業団
事業所 公益財団法人岡山県環境保全事業団環境調査部
〒701-0212 岡山県岡山市南区内尾665-1
TEL:086-298-2616 FAX:086-298-2617
登録番号 岡山県知事登録 第6-1号, 第7-1号
及び第8-1号



検液作成方法：平成3年環境庁告示第46号付表

試験管理者 環境計量士 大塚 和重



上記試料について試験の結果を下記のとおり報告します。

試験の対象	試験の単位	試験の結果	試験の方法
カドミウム	mg/L	0.001 未満	平成3年環境庁告示第46号 (JIS K0102 55.3)
全シアン	mg/L	0.1 未満	平成3年環境庁告示第46号 (JIS K0102 38.1.2及び38.3)
有機磷	mg/L	0.1 未満	平成3年環境庁告示第46号 (昭和49年環境庁告示第64号 付表1)
鉛	mg/L	0.010	平成3年環境庁告示第46号 (JIS K0102 54.3)
六価クロム	mg/L	0.02 未満	平成3年環境庁告示第46号 (JIS K0102 65.2.1)
砒素	mg/L	0.005 未満	平成3年環境庁告示第46号 (JIS K0102 61.3)
総水銀	mg/L	0.0005 未満	平成3年環境庁告示第46号 (昭和46年環境庁告示第59号 付表2)
アルキル水銀	mg/L	0.0005 未満	平成3年環境庁告示第46号 (昭和46年環境庁告示第59号 付表3)
ポリ塩化ビフェニル	mg/L	0.0005 未満	平成3年環境庁告示第46号 (昭和46年環境庁告示第59号 付表4)
ジクロロメタン	mg/L	0.002 未満	平成3年環境庁告示第46号 (JIS K0125 5.2)
四塩化炭素	mg/L	0.0002 未満	平成3年環境庁告示第46号 (JIS K0125 5.2)
クロロエチレン	mg/L	0.0002 未満	平成3年環境庁告示第46号 (平成9年環境庁告示第10号 付表 第2)
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.0004 未満	平成3年環境庁告示第46号 (JIS K0125 5.2)
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.002 未満	平成3年環境庁告示第46号 (JIS K0125 5.2)
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.004 未満	平成3年環境庁告示第46号 (JIS K0125 5.2)
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	0.0005 未満	平成3年環境庁告示第46号 (JIS K0125 5.2)
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.0006 未満	平成3年環境庁告示第46号 (JIS K0125 5.2)
トリクロロエチレン	mg/L	0.002 未満	平成3年環境庁告示第46号 (JIS K0125 5.2)
テトラクロロエチレン	mg/L	0.0005 未満	平成3年環境庁告示第46号 (JIS K0125 5.2)
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	0.0002 未満	平成3年環境庁告示第46号 (JIS K0125 5.2)
チウラム	mg/L	0.0006 未満	平成3年環境庁告示第46号 (昭和46年環境庁告示第59号 付表5)
シマジン	mg/L	0.0003 未満	平成3年環境庁告示第46号 (昭和46年環境庁告示第59号 付表6第1)
チオベンカルブ	mg/L	0.002 未満	平成3年環境庁告示第46号 (昭和46年環境庁告示第59号 付表6第1)
ベンゼン	mg/L	0.001 未満	平成3年環境庁告示第46号 (JIS K0125 5.2)
セレン	mg/L	0.002 未満	平成3年環境庁告示第46号 (JIS K0102 67.3)
ふっ素	mg/L	0.24	平成3年環境庁告示第46号 (JIS K0102 34.1)
ほう素	mg/L	0.73	平成3年環境庁告示第46号 (JIS K0102 47.3)
1,4-ジオキサン	mg/L	0.005 未満	平成3年環境庁告示第46号 (昭和46年環境庁告示第59号 付表8第3)
備考			

注記 (1) 試料採取者が「持込試料」の場合、試料採取について当団が関わっていないことを示します。
(2) 試験の結果が「...未満」とあるのは、定量下限値未満であることを示します。
(3) 当団の許可なく、本報告書記載事項の一部のみ複製(変更)することを禁じます。

別表 (土壌の汚染に係る環境基準について)

項目	環境上の条件	測定方法
カドミウム	検液1lにつき0.01mg以下であり、かつ、農用地においては、米1kgにつき1mg未満であること。	環境上の条件のうち、検液中濃度に係るものにあつては、日本工業規格K0102(以下「規格」という。)55に定める方法、農用地に係るものにあつては、昭和46年6月農林省令第47号に定める方法
全シアン	検液中に検出されないこと。	規格38に定める方法(規格38.1.1に定める方法を除く。)
有機燐(りん)	検液中に検出されないこと。	昭和49年9月環境庁告示第64号付表1に掲げる方法又は規格31.1に定める方法のうちガスクロマトグラフ法以外のもの(メチルジメトンにあつては、昭和49年9月環境庁告示第64号付表2に掲げる方法)
鉛	検液1lにつき0.01mg以下であること。	規格54に定める方法
六価クロム	検液1lにつき0.05mg以下であること。	規格65.2に定める方法
砒(ひ)素	検液1lにつき0.01mg以下であり、かつ、農用地(田に限る。)においては、土壌1kgにつき15mg未満であること。	環境上の条件のうち、検液中濃度に係るものにあつては、規格61に定める方法、農用地に係るものにあつては、昭和50年4月総理府令第31号に定める方法
総水銀	検液1lにつき0.0005mg以下であること。	昭和46年12月環境庁告示第59号付表1に掲げる方法
アルキル水銀	検液中に検出されないこと。	昭和46年12月環境庁告示第59号付表2及び昭和49年9月環境庁告示第64号付表3に掲げる方法
PCB	検液中に検出されないこと。	昭和46年12月環境庁告示第59号付表3に掲げる方法
銅	農用地(田に限る。)において、土壌1kgにつき125mg未満であること。	昭和47年10月総理府令第66号に定める方法
ジクロロメタン	検液1lにつき0.02mg以下であること。	日本工業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法
四塩化炭素	検液1lにつき0.002mg以下であること。	日本工業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法
1, 2-ジクロロエタン	検液1lにつき0.004mg以下であること。	日本工業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1又は5.3.2に定める方法
1, 1-ジクロロエチレン	検液1lにつき0.02mg以下であること。	日本工業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法
シス-1, 2-ジクロロエチレン	検液1lにつき0.04mg以下であること。	日本工業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法
1, 1, 1-トリクロロエタン	検液1lにつき1mg以下であること。	日本工業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法
1, 1, 2-トリクロロエタン	検液1lにつき0.006mg以下であること。	日本工業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法
トリクロロエチレン	検液1lにつき0.03mg以下であること。	日本工業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法
テトラクロロエチレン	検液1lにつき0.01mg以下であること。	日本工業規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法
1, 3-ジクロロプロペン	検液1lにつき0.002mg以下であること。	日本工業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.1に定める方法
チウラム	検液1lにつき0.006mg以下であること。	昭和46年12月環境庁告示第59号付表4に掲げる方法
シマジン	検液1lにつき0.003mg以下であること。	昭和46年12月環境庁告示第59号付表5の第1又は第2に掲げる方法
チオベンカルブ	検液1lにつき0.02mg以下であること。	昭和46年12月環境庁告示第59号付表5の第1又は第2に掲げる方法
ベンゼン	検液1lにつき0.01mg以下であること。	日本工業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法
セレン	検液1lにつき0.01mg以下であること。	規格67.2又は67.3に定める方法
ふっ素	検液1lにつき0.8mg以下であること。	規格34.1に定める方法又は昭和46年12月環境庁告示第59号付表6に掲げる方法
ほう素	検液1lにつき1mg以下であること。	規格47.1若しくは47.3に定める方法又は昭和46年12月環境庁告示第59号付表7に掲げる方法
備考	<p>1. 環境上の条件のうち検液中濃度に係るものにあつては付表に定める方法により検液を作成し、これを用いて測定を行うものとする。</p> <p>2. カドミウム、鉛、六価クロム、砒(ひ)素、総水銀、セレン、ふっ素及びほう素に係る環境上の条件のうち検液中濃度に係る値にあつては、汚染土壌が地下水面から離れており、かつ、原状において当該地下水中のこれらの物質の濃度がそれぞれ地下水1lにつき0.01mg、0.01mg、0.05mg、0.01mg、0.0005mg、0.01mg、0.8mg及び1mgを超えていない場合には、それぞれ検液1lにつき0.03mg、0.03mg、0.15mg、0.03mg、0.0015mg、0.03mg、2.4mg及び3mgとする。</p> <p>3. 「検液中に検出されないこと」とは、測定方法の欄に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。</p> <p>4. 有機燐(りん)とは、パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン及びEPNをいう。</p>	